



考えたことと言葉にしよう

これからは「めっちゃくちや変化する世界」になりま

す。そこで生き残るための教育は、意外と本質的なものではないでしょうか。つまり、考える力と、考えたことを言葉にする力を身に付ける、そして、体験総量

を増やすということ。しまう。いつの時代も同じ

を。それだけ遊んでけんかを。国の人と出会ったか。挫折も含めた多様な経験が足りない。大人になっ

後、人工知能(AI)がやってくれます。そうではなく、働く頭をつくるのが大事。

「より良い枠組みを選ぶために良い成績を取る」という従来の考え方は、コロナ禍のような事態に

対して、苦手に感じたり、乗っかかるといって、正しい答えを出すのは今

たかま・まさのぶ 1959年熊本県生まれ。幼児から中学生までの学習塾「花まる学習会」代表。3浪して東京大に入学、90年に同大学院修士課程修了。思考力や野外体験を重視する独特の教育理念や学習法で注目される。算数オリンピック作問委員も務める。

シリコンバレーで大成功した人の共通点は高校、大学で「不良」だったということらしい。周りの言うことが絶対とは思わず、従わない。学校に行かず街で

ラフラしながら、自分のペースを取り戻し、世界を自分の言葉で語り直す。正解なき人生で誰の笑顔を一番大切にすることを考えたのではないのでしょうか。

実際に食べていくには実力を付けなければいけません。しかし、まずは自分の頭でとことん考え、周囲の期待や常識を取り去った上で「やっぱりこれがやりたい」というビジョンを明確に持つことが大事です。コロナ禍は「不良」でない人にも「当たり前」を疑う哲学の機会を与えてくれたのではないのでしょうか。